第 116 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 27 年 4 月 14 日提出）

１．題　目：教養教育ＦＤワークショップ（初習外国語）
「初習外国語教育のさらなる改善にむけてー学生参加型授業の推進ー」

２．日　時： 平成 27 年　2 月　7 日（土）13：00 ～16：00

３．場　所：教養教育講義棟 A-11 教室

４．主　催：初習外国語小委員会

５．対　象：教養教育外国語科目（初習外国語）担当教員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　○　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　○　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
本学では平成 24 年から教養教育が一新され、学生参加型授業、アクティブ・ラーニングが積極的に推進されてきた。これは教養教育の主要な柱となる初習外国語科目においても同様であり、科目目標として「積極的な学生参加型授業を行う」ことを掲げている（学生便覧参照)。今回の FD では、本学の教養教育の基本方針について教員間での共通認識を確認し、学生参加型のアクティブ・ラーニングのさらなる実現を図るところにその意義がある。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
1. 外国語教育（教養教育）の基本方針について　　13：00－13：15
稲田　センター長（言語教育研究センター）
2. 学習環境の整備状況について　13：15－13：30
劉　委員（言語教育研究センター）
3. 学生による授業評価からのフィードバック　　13：30－14：00
川越　助教（大学教育イノベーションセンター）

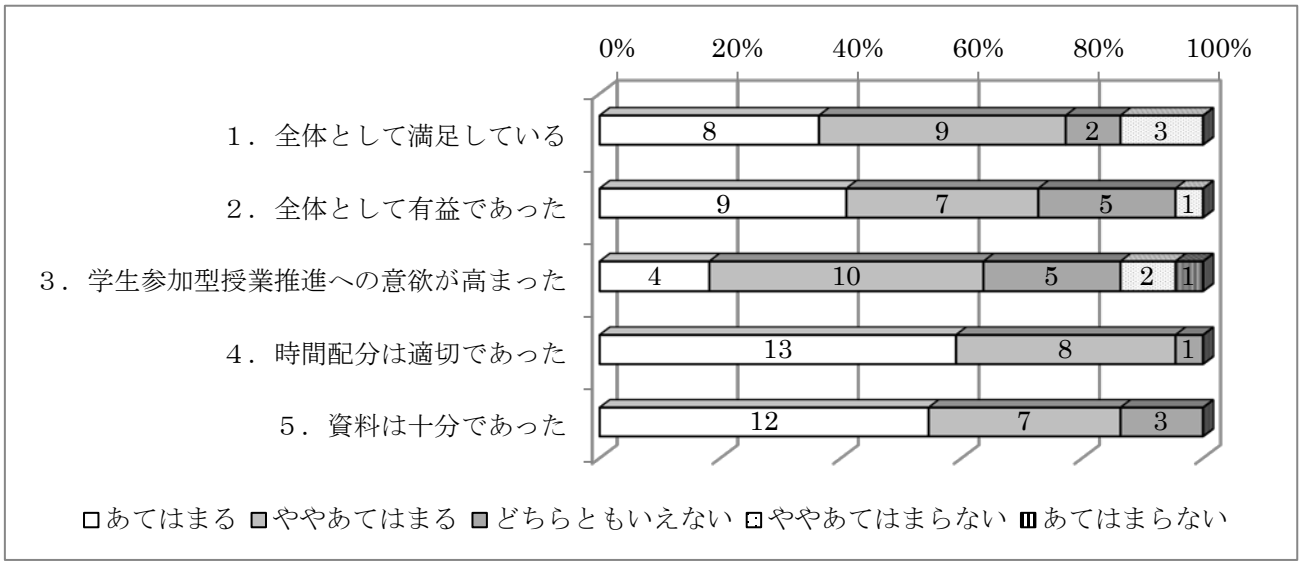
4. グループセッション　　14：10－15：00
5. 言語別分科会　　15：10－16：00

９．参加者：２５名（受講証発行対象者：２３名（途中退出者２名を除く））
（内訳）

所　　属	人　数
言語教育研究センター	4
多文化社会学部	2
経済学部	1
学外非常勤講師	１８
計	２５

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等
（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



（回答者：２２名）

●学生参加型授業に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。
・語学教育とＡＬとの連関についてもっと議論を深められるとよいかと思います。実例など参考にしつつ、どういうあり方が考えられるのかを共有できたら幸いです。
・学生参加型授業というものより明確に定義してから議論したほうが良いと思われる。
・すでに学生参加型の授業をしているので、今回のＦＤで意欲が高まったということはあまりなかった。次回は外部から学生参加型の授業をしているモデルとなる講師をよんで話してもらってもいいと思う。

・クラスの規模について再検討してほしいと思います。せめて 40 人学級を！お願いします。
・主体的学習と課題学習は本来逆方向の方針である。どうやって学習していいのかわからない。学生に課題を与えるのは意味があるが、学習の仕方を心得ている学生に課題を押し付けるのは非主体的である。本学には医歯薬などの学習能力の高い学生がいる一方でそうでない学部生もいる。医歯薬生などはアクティブな授業よりも知識量の多い授業、言語についての奥深い洞察をきくことができる方を重視している。
・語学(初習外国語)において AL 授業が本当に有効か検証が必要。特に(コミュニケーション能力が低い・学習モチベーションが低い)学生のためになるのか疑問。せめて受動的にでも何かさせなければ、何も学ばない、学べないことになる。とにかくクラスサイズが大きすぎる。
・クラスサイズを小さくしてほしい。常に板書は 10cm×10cm の文字で書いているが、それでも後ろの学生は見えないのではないかと思う。(A-43,58 名)
・言語教育は外の科目授業とやや違って参加型になることはやや難しい。したがって、先生達はもっと工夫して頑張らないとできない。
・どういうかたちになるかあまりわからないです。
・「学習環境の整備状況について」PPT のプリントをいただけますでしょうか。
・学生が主体的に予習・復習する為の課題レポートへのアクセス回数をカウントできるのかどうか知りたい。

●今回のＦＤの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。
・またこのような機会をご意見いただけると有益かと思いますのでよろしくお願いいたします。
・データ数値を平均だけでなく最高、最低を表示して欲しい。
・初習外国語のＦＤも数回実施されたが、どこまで効果的かいまいちはっきりしない。グループワークのＦＤは多言語の先生方と話せてよかったと思う。
・「学生参加型」の定義が難しい。
・やる意味がないとは思わないが、特定のバイアスがかかりすぎている。
・アジア系とヨーロッパ系をまぜたグループセッションがよいのでは。
・春学期の自分のアンケートを参考資料として頂ければよかった。自分に対する評価を確認したかった。(自宅にはあります。)
・よいと思います。
・とても勉強になりました。
・とても有益な内容でした。今後ども参加させていただきたいです。よろしくお願いします。
・参加して有益であった。ＩＣＴ利用による各言語の取り組みがあれば知りたい。

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本 FD は、本学の教養教育の基本方針について教員間での共通認識を確認し、アクティブ・ラーニング（学生参加型授業）の実現を図ることを目的に開催された。前半では、本学が行なっている教育改革においてアクティブ・ラーニングが重要な柱となっていること（稲田センター長）、アクティブ・ラーニングの支援の一つとして、教室及び ICT 環境の整備が進められていること（劉委員）が説明された。また学生による授業評価結果が報告され（川越助教）、後半の討論に続いた（各言語別報告書参照）。参加者からは 60％の方から「学生参加型授業推進への意欲が高まった」という回答が得られた。ただ、なかには具体的な事例が知りたいという意見もあり、今後の検討事項となった。

（文責：劉　卿美）

１１．実施代表者の連絡先

部　局：言語教育研究センター

職　名：言語教育研究センター長　　氏　名：稲田　俊明

e-mail：inadat @nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2379

１２．申請者の連絡先

部　局：言語教育研究センター

職　名：教授　　氏　名：劉　卿美（ゆう　きょんみ）

e-mail：you-kiss@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2081